特116
714

改訂增補

觀世流

常盤謠本

西王母
通明寺
經政
百万
巴

六

171
148

始

特116
214

三月　西王母　初能

西王母

位破　シテ女　後ニ西王母　前ニ唐土　後ツレ　ワキ　ワキツレ　女　王　大臣

大宮一畳臺
初ニ脇座ヘ出ス
脇
唐冠　大口　狩衣
唐團扇持
脇連二人
前折烏帽子　大口
狩衣　扇

ワキサシ　来序ソヨク角　有難や三夏五帝は昔よりいまに
世代を重ねまつりかの靈亀の甲
ツレ　地　其口碑　地　めいぎ
ツレ　地　海乃ごとくゆきこうた
ワキ　天よりやきの地より
上ノ句　廣き門めぐり
ツレ　閑　みるて　辰を拝むもまた教くれ
中ヨリ

2.12.25
内藤

太夫
面 増 カツラ 女ガツラ
箔 腰巻 單側次
桃ノ花枝持 扇ヲ持ツリ
ツレ女
面 装束全新 扇

[illegible]天より降る星のごとく百官相雲
[illegible]宮や千戸の戸のもとなびかこ
をよろこぶ門[illegible]ふもとの[illegible]
市をなす金銀珠玉をまきあつめ
うやうやしく日夜の陽炎ぞ
[illegible]見物をもよ
をつ[illegible]
[illegible]

女ニテ本ニセイ
桃李物ツリ

[illegible]貴賤まどうの陸
[illegible]面目や四季折々の時をえて
がほ木国たれのびびとも皆是[illegible]の花
乃[illegible]法乃[illegible]の心[illegible]
時や至のもの[illegible]二千年よ[illegible]
をつ[illegible]乃[illegible]とやいだや
[illegible]より[illegible]君にさ[illegible]

上哥、やすく見るぞそれ法の心あはれ深くて
隙ゆく駒の法の道、隔つる外もなく
うへなき道に至りてはありがたき霊
山会場の法の如く、広き心の真
ある君となりては、尽きせじな誠も久しき御代の
世の心あれく、いざや参内申さん
乃作　参内をとりおこなはるのぞ

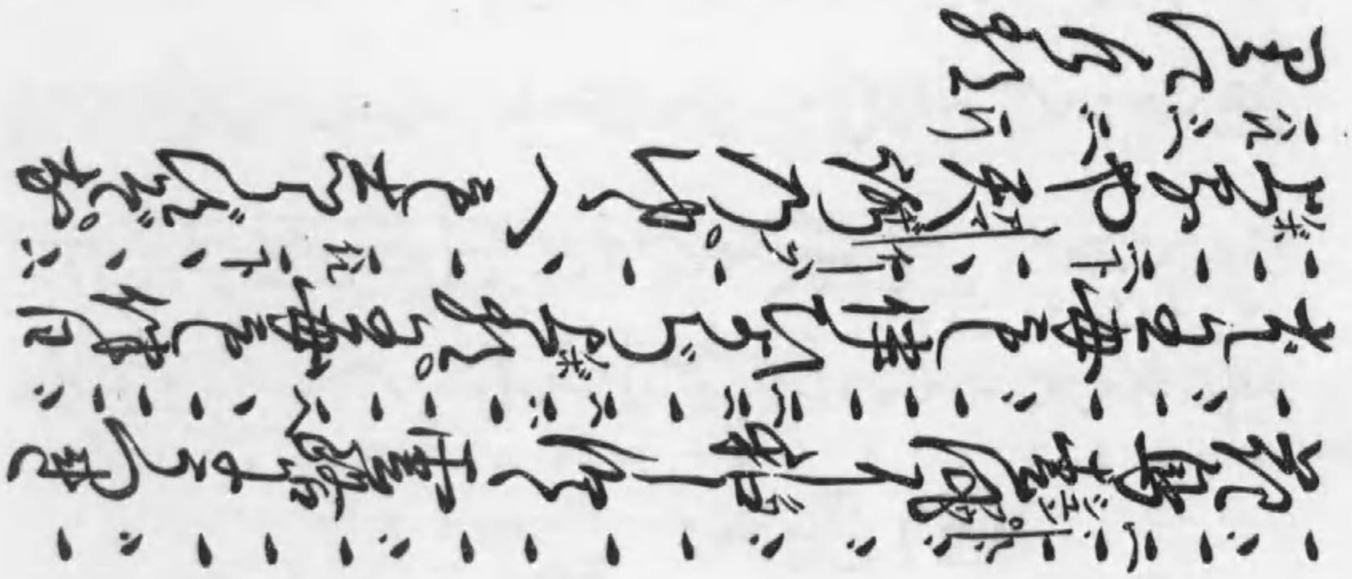
シテ「是は三千年に花咲き実なる桃花なり
然るに今此御代に至つて花咲く事
ひとへに此君の御威徳なればあまねく
かぎりなくまつらんと作　ワキ上「そもそも三千年に花
咲き実なるとは、是は名にしおふ
西王母が其の桃の　シテ上下「中々にてさうらふ
さるにも今は物ごしにて　ワキ「されば其捧

後太文
天冠 色太口 舞表
劒バク 前

ワロ女
大口 坪折 扇指
袴貫ヲ重ミノセ持

隣なく誠に秋にして西日毎乃ぐるよ
せを序うて花に宴をもあらはさと
天ぞあぐうきに天てぞ上りぬる
紅葉乃舞をよぐ[illegible]
て音樂に[illegible]わるる天津風雲
乃通路心[illegible]面白やぐ[illegible]
散てんせむ[illegible]なまじ[illegible]

乃孔雀鳳凰迦陵頻伽[illegible]
輝に[illegible]や袖に羽に天津乙女の衣
なびあまたをいろく
[illegible]中にをみえ[illegible]
西に毎乃[illegible]
[illegible]



九月　神祇　五番目　初番目ニモ

道明寺

前シテ　尉　後シテ　白太夫神　前ツレ　男　後ツレ　天女　ワキ　僧
仕舞所ハ　河内

作物　木ゲン樹　初ニ出ス
ワキ　大口　僧
脇ツレ二人　大口　僧

ツヨク　同　次第〽
菩提のたねをうゑおくや、菩提のたねをうゑおくや、仏の道明寺
たづねん　ワキ　是は相模の国田代の
所のそんゆうと申者にて候我善光
寺の如来に一七日こもり申て候へばあら
たに御霊夢を蒙りて候程に是より
河内の国土師寺へ参らばやと思ひ候　名利を捨て

ツレ
放髪 熨斗目 白大口
掛素袍 扇

太夫
面尉 尉髪 前折烏帽子
厚板 白大口 黄縷 狩衣
杖突 念珠持

あやうかりける世中をつくづくとまもるに
かひの川猿衣が白地の山路よりとく
指行方は白雲の海もみえたる一四君
夕日がくれの霧間より流れきもて
きや河内なる古郷の里神をゆきて
人もし長月の名を持の神を
えくてるや紅葉の古郷の里移中

きれ織る音とくや松風をとなりさぞる
飛む星よりたる老人の山里の名を
ちど寺の仏菩薩よ住人申去也有難や利
生良様しもや極れともやうらき猶もらげ
さくら天満神乃宮ずるてあゆるそれそこ
嫉御値遇ひうくまれてまさ心ちまさうや
らがうめい頼むしもやいさや寺をそれ

こがらすく非いとゞる松ハ十かへりの
代乃秋く霜を重ねて下草枯れ
山のすがたもあらゝ非よは今そ
まつれ宮路ろき掲笛ハあふさき訴言
ひさ有かるやく いつこ是成官人よ
申べき事の候 此方の事にて候
何事にて候ぞ 是ハ善心る乃

紅梅乃御尊崇ようありさもかく祝める
おしまりて候 土守の人々よあひ申ぱ是々
乃梅とかつりと崇めん 是ハ思ひ成る
をば紅梅のおそれ御多くの物やうをとゑ
老人よ此御物語く是承りく土守の
人々すみろめにて候 けふうけしや御
ぱうめ事くもて土守の人々くてし御

ひろめ仕へ心得よと、是を相模國
田代郡戸村にて申、聖に
てんが。我入会仏住生の志をふかくして
さて信法出善男子とまうす人まうで七日に来
竜戸家よ出家法師に成り
きかせ家よりて震震をふるひ
法僧ひあらたなる御声ありて仏会

仏住生の心ざし深し感なり尼
立義門河内國出家師寺に天神社
可なり。彼社を初めしるべ社
乃神にて勧請申しまつりて天狗
一切衆生現世二世の為に。五部の大乗
経を書て信養して、埴まれたり。を軸
より木槵樹乃木生出たり。をこれを

をとり数珠とし。念佛百万反(ベン)やさだく
往生疑あるまじきと照りし其ちかひ
ぬなかんぼうすなはち御身を起なそかく
まかす縁三のおもる社より。識(シキ)と申なら中(ウ)
乃人にて、かまへ申べし。是唯今云ふ
其の木槵樹をと申を申なし。此方へ
御出人さるべからず御信申なべし

是に神のをたづねてにしも七社の神をも
をがみまゐらせよこの成は天神にて
ほとけおまへにおはしたる社のと御もの
かうりは木槵樹なく候。随と成ちをかき
候へ有縁や神も仏も同一体といふせ
ごえし。天神は其乃御結縁へうけよめ
て頭は上にヨワクたそて此霊乃御や前今

みれしかぬ天神乃本源一躰ハ御値
遇天神と申て其御本地救世観音
なるへし海さらや　ワキカヽル「げに〳〵是ハ
理りなり昔在霊山名法花　シテカヽル「今在
西方名弥陀　ワキ「娑婆示現観世音
シテ「三世利益同一躰　ワキ「これ外神やおと
けさは水波乃隔みて神や仏

一如まさに代々のみちあきらかよ曇
らぬ神の宮なるそたつときみかりくし
有かたし実神力も仏力もおなじ利
生乃為にて露らし給ふぞありかたき
きれく　クリ同「夫紀のむし神乃後
出し時代よ至る道神まし渕世よ辭
給ふ響く西都ようつり給ふ　シテサシ「一月

下は五畿七道を出まかせ給ひつゝ
歩みの果ての旅宿あれば。指をさして御神
抑とても絶えぬ代々直遇の御結縁とて
たゆみなき身と角もなくそこを通る道
乃くの宮の露も志ばらく。かゝる君の
まむ宿は梢をゆくも雲がくれ
かつりをぞしるべの御縁めかしてよし

あはぞかつ身のき。梅といはるてもおす
なせられぬ旅乃身の都に捨つる心つかへ
ろく。天門鄙の國よりも果の世にあれば
うべあつり。都の楼乃かゝる観音寺
乃鐘の声より響きて。ともすれ都乃
春秋を打つて暮れぬ時の鐘
をきの暮れて三四月落る潮八百千行

申すべきてぐさとぞ立ちまいりて
我ら天神は住吉の浦とぞ申さう
大天乃神と顕はれ給ふ早速に霜を降
ぐりや霜ぐもとて出雲の国
乃あれいたちの神は遊びと思ひもて
そろや 天神の舞楽乃やくくそろりぐ
ぞ琴を調べ笛作れ

後太夫
面皇帝 烏甲 平ましま
狩衣 半切 神楽

ぞ侍ぐもほどぎれ侍ぐもや遊きぞ
ぞ大天上ぐ
やく宮ぞれ音乃ともひめくそろり
天女上
すみ自天乃神七社乃御前よ韓神
催馬楽やを拍子やくとい
見びや大天上 作さ物くぐも
阿よりぐ自天乃上乃霜つくる老ぐ

乃梢に猿の聲さ木穂樹にて
まろかありてかるや一味の雨風を
そゝぎて梅よりて乃ちをふるひ落して
彼そむきやりてあくれは社おそひ
乃もとつめて牧さる百八煩悩の数ハ百
八煩悩をかさね数珠の道明るき鐘
得ぐして神楽のきはめあるを

九月　修羅物　二番目

經政

法破シテ經政　ワキ僧
所ハ京都

脇
沙門帽子　大口僧

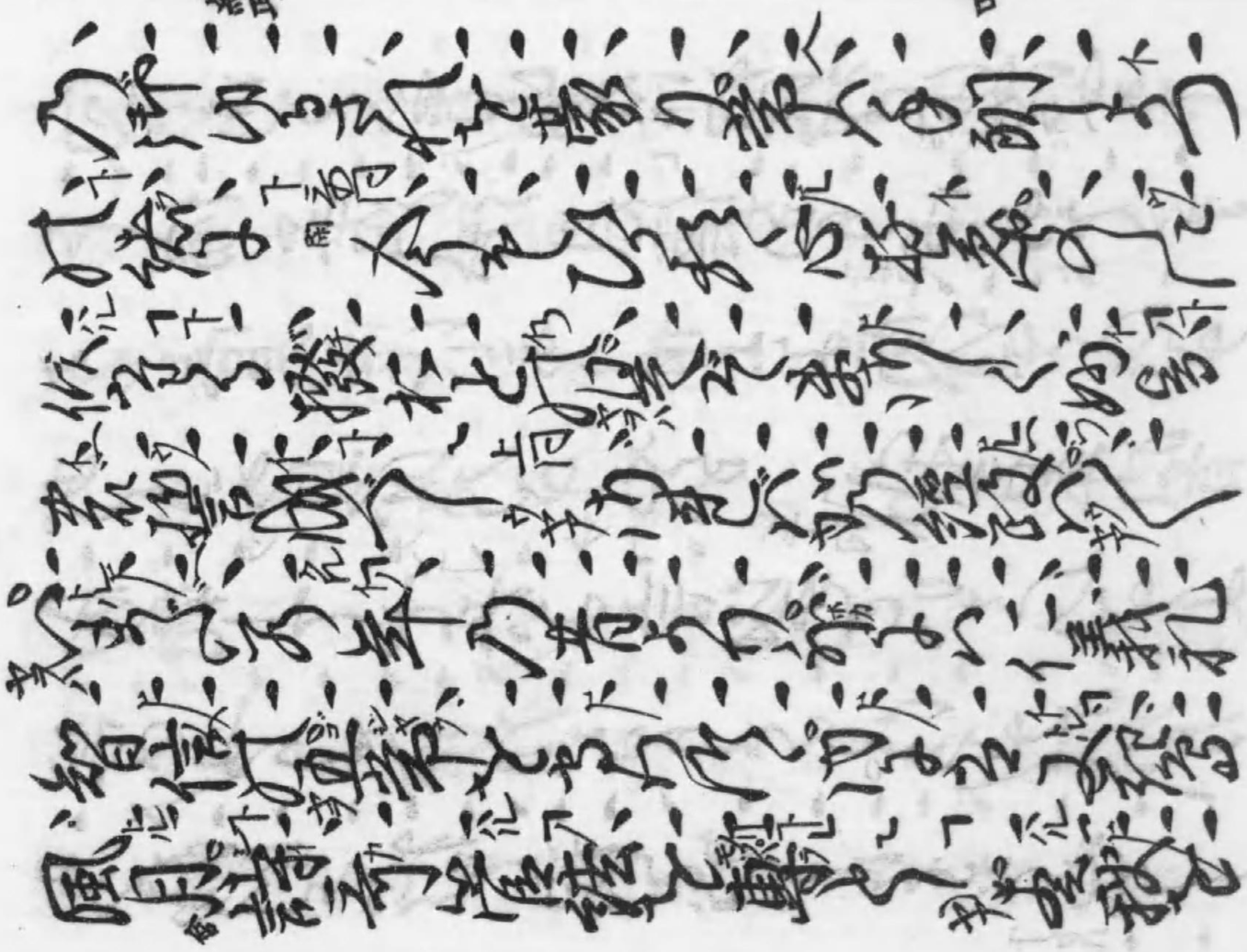
ワキ詞
是ハ仁和寺御室に仕へ申す。
僧都行慶にて候。さても平家の一門但
馬守經政ハいまだ童形の時より君御
寵愛なのめならず候ひしに此度西海
の合戦に於て討たれ給ひて候。又青山とて
御琵琶ハ經政存生の時より預け給ひしを

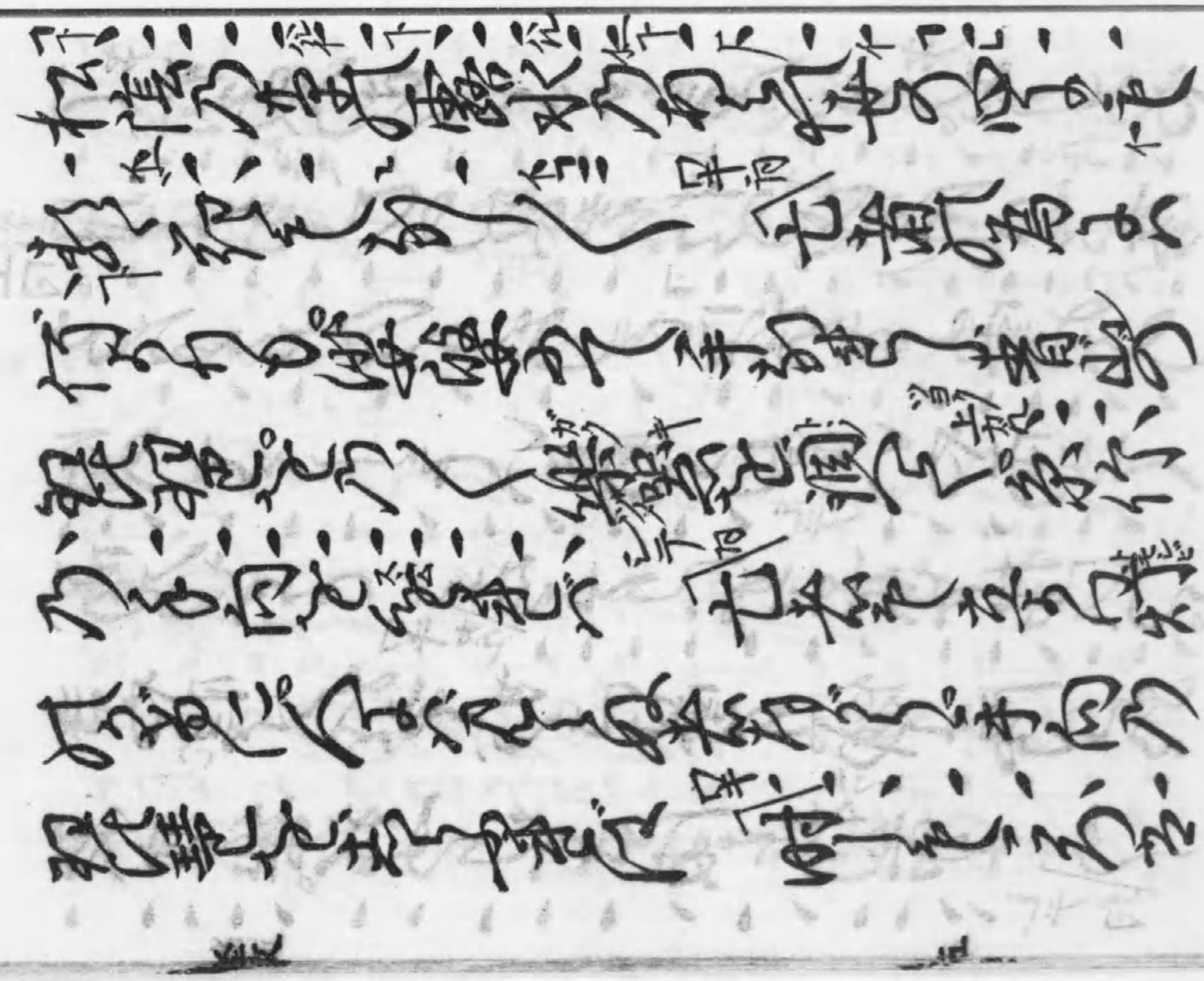
けりそれ彼琵琶をも仏前にすへ置
管絃講にて弔ひ給へとの御事にて
伶人の役者を集め夜念や一樹乃陰
にやどり一河乃流れをくむぞ法も
他生の縁ぞかしまして多年の値
遇めぐる世をふるかは哀もなほざりな
くも宮中にて法事をなすてよもし

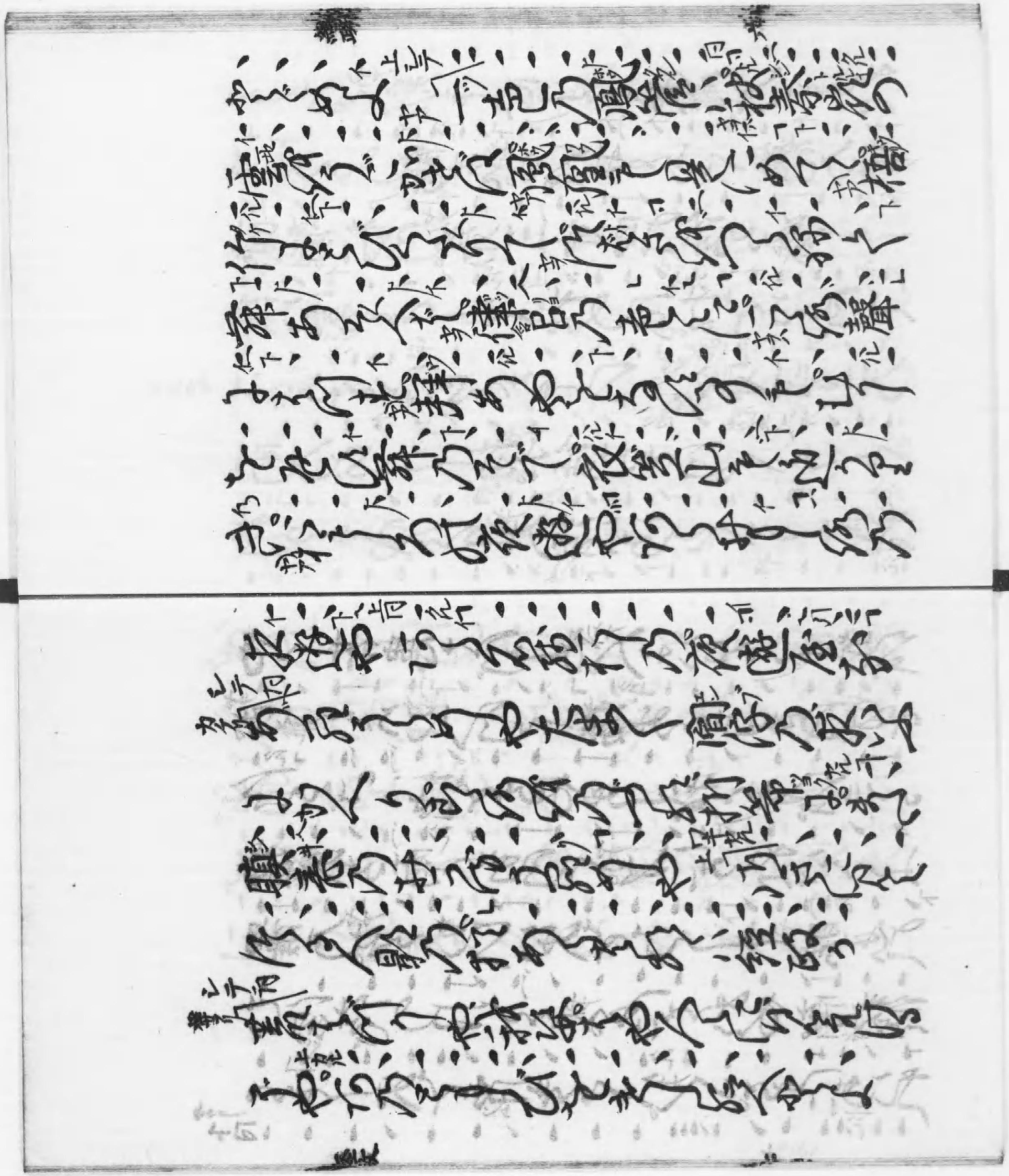
太夫
面 敦盛ノ類 或若喝食
厚板 大口 長絹
太刀 扇

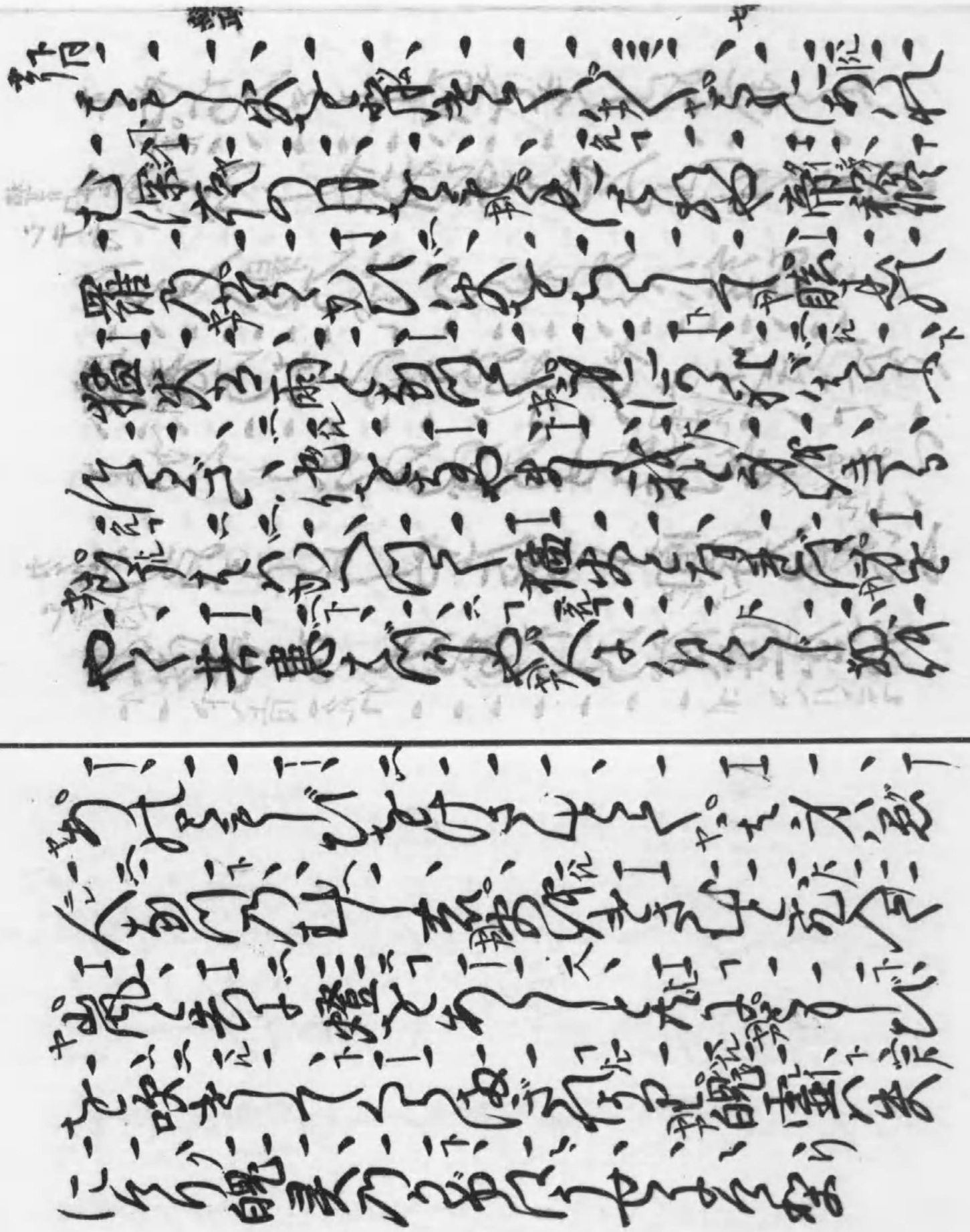
ずの凡身の經政成仏得脱の為に有
難さよ 上 こゝに彼青山と云ひし琵琶を
亡者乃為に手向つゝ同じく糸竹の急
を伶すをあらそひ日夜の法の
門もよ殿の首をもあはれや
枯木をそこなはず天乃雨月乎等のを
てらさば夏乃夜乃霜のさかりかとや

うしで燈よりみえぬるならぬ陰露乃身
なほ残りしも乃こゝろ妄執の縁にひかるゝ
[ワキカヽル]
不思議やな夜も深更になるほどに
まさしく燈火の影に幽なる人影の見えつるは
いかなる人にておはしますぞ。
[シテ]
我経政が
幽霊なるが御弔ひの有難さにこれ
迄あらはれ参りけると
[ワキカヽル]
そもや経政の
幽霊と名のり給ふかたを見ればまさしく
消ゆると形もなくて
[シテ]
声ばかりのみの
絶えのこりて
[ワキ]
まさしく見えつる人か
げ乃
[シテ]
あるかとみれば
[ワキ]
又見えもせで
[シテ]
[ワキ]
かつろうちすきさうて
[シテ]
蜻蛉乃
あるかなき
乃常ならざる身にて経政のうつゝともなき









二月　修羅　二番目

位破　シテ　男
後シテ　景季　ワキ　僧
所ハ　攝津

ワキ
着流僧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

シテ放髪、段のしめ
白大口、掛素袍
男扇

雲の波ぞ立ちまさる　松原の里の名ぶ
須磨の浦ぞ　男つよ　いきしく
シテ　ある年の春の花　生田川　おぼえて　春の
月日うれ　花落葉　無常の常住
不滅の栄　一色　ぞ　中道の眼　意と人間　ぞ
の親　ぞ　定めの

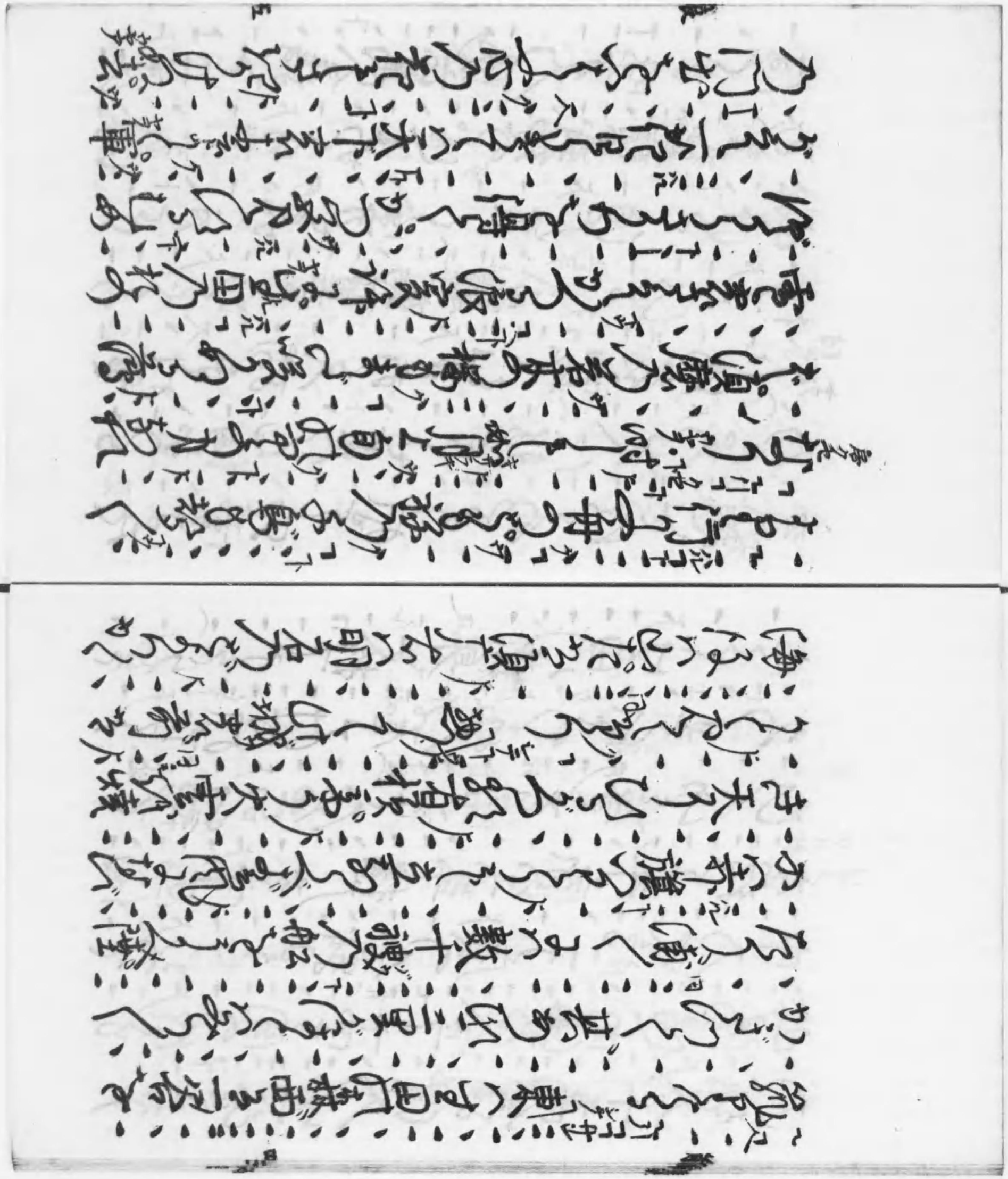
身命や　人間有為の　変化　生田川　ぞ
中　顕れて　間浮の　志執の
ぞ　海　生田川　ぞ
雲　夢　夢の　ぞ
ぞ　行　定　ぞ
ぞ　いよいよ　ぞ
の　梅　木　ぞ

見くへえびらの梅と申ハ（ワキ）意にかなふ
や籠乃もあくいぬの内のばゝ乃ゑんゑ求お
てゝぞ（シテ）ハいや右求様乃事ハ作乃ゑ
ぱゝ見るうにてよおりうたう異ゑんゑ
よ（ワキ）くハうるうるよ右付やうる吳ゑ成
ゑ。毒れ如吾ハ（シテ）ハ花ぱ田森森
ゑ。卒家十萬金遣乃、迎手ありよ。

ゆ氏ハ花ふ梶原卒義景時同じく
源ゑ景季ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ梅花乃者を
一（ト）枝ハ籠ゑ。此花則義経
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
高ゑ右人ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
び花ゑ獺（ライ）ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ト（トカル）ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

ぬばたまの梅の花
古歌
石ずゑ
きみがたもとに
雨の降る
長景季
三石ずゑの花の
厳雲梅の
名もとどめ
花のゆくへ

きくの田の
身も捨て
くりの
ツヨリ
去年
播磨
中の水
度の合戦
陽道
南海
合て十四ヶ国の
合て



ほどよ味方入越ぬ。六萬人言詩を二手に
ひきて範頼義経の。迫をかけらるゝ。海
が二十、一下、一下、一下、雲方をかこんだ
山ひけく須磨雲がたこんだ
わたりよりは上ミテ、上ミテ、魚鱗鶴翼をしかけらる
月の出れば山もよもすがらへぬ。をも
乃ちこゝに新ぐをたゝん海おづる
雲は翅をひらめ。雲はた

浦より海へさゝぬぐ。
漁火の船歌。
カツぎろよやも。
野ゆきしかの。
海士乃ゝ船。
をえの梅。
宿ゝ。

白雲の

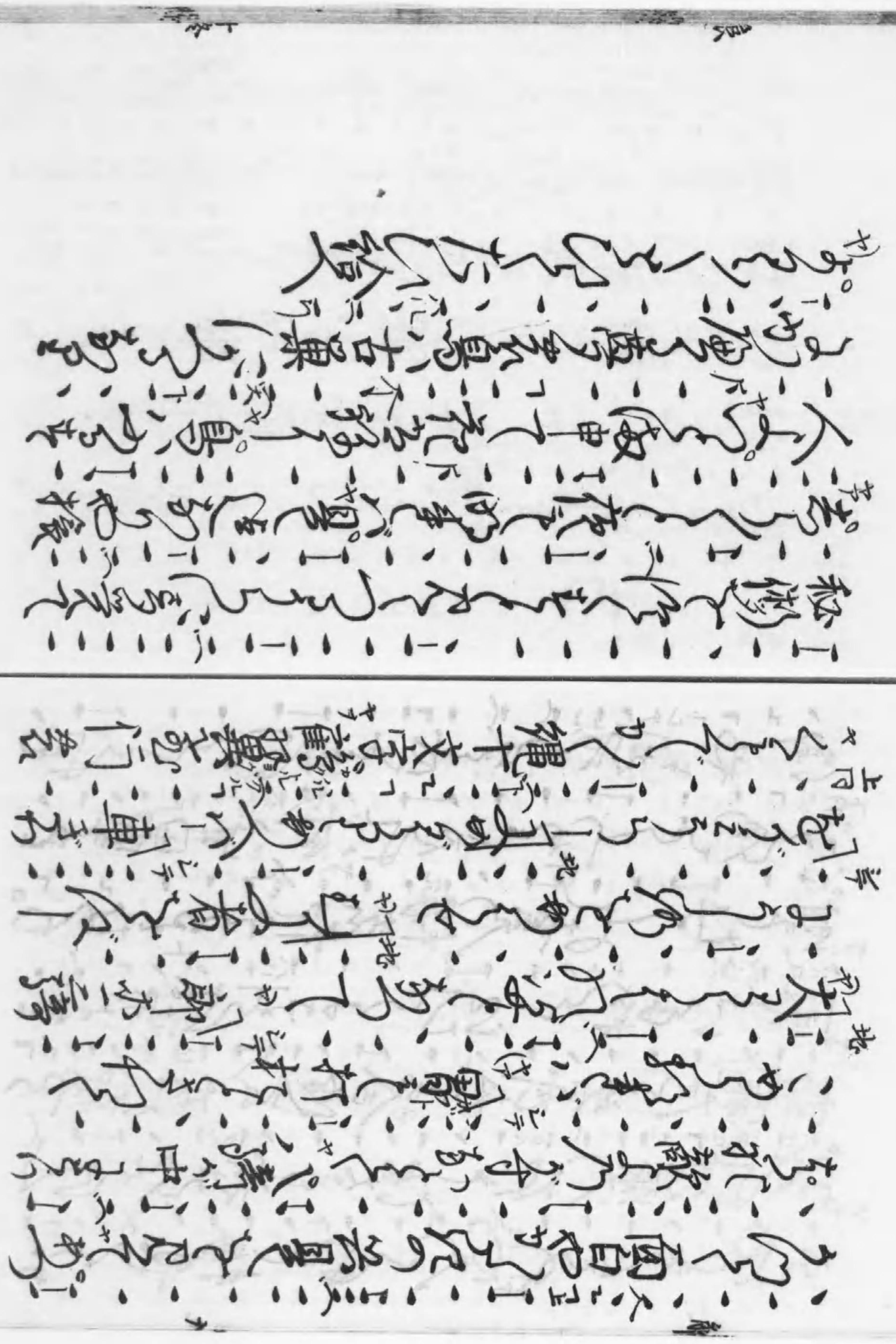
ぞ乃ゆ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
上地 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]
おり無き深鹿乃浦にあり（上地）紅波
たゝなはる（上地）白双貝をくだる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かゝるべき
ばくぜ雨ふり
をぬくに
雷火もふれ
をあびて
波をたゝ
皆仏だ

ワキ上カル
ツレテ
天地を入
ワキ
山を震動
海もわき
上ヨリ
悪風吹
石煙乃雲
焔をはかつて
氷をとゝ
里海ヲ立
ちまちと成ぬ
ヤ
法

海
ヤ
トレテ
心を
月ニ
ごとの
ヤ
時を
ヤ
一
ヤ
窈窕たる
ヤ
ばかり
ヤ
さ
ヤ
ツル
ヤ
ツル
ヤ
ツル



正月　修羅　二番目

位破　前後　巴　ワキ　僧

巴

ゆきかたしらぬ山ぢ

行脚着流僧

猿よ出うよ

出る僧うらぶ神いまづ都とこびん

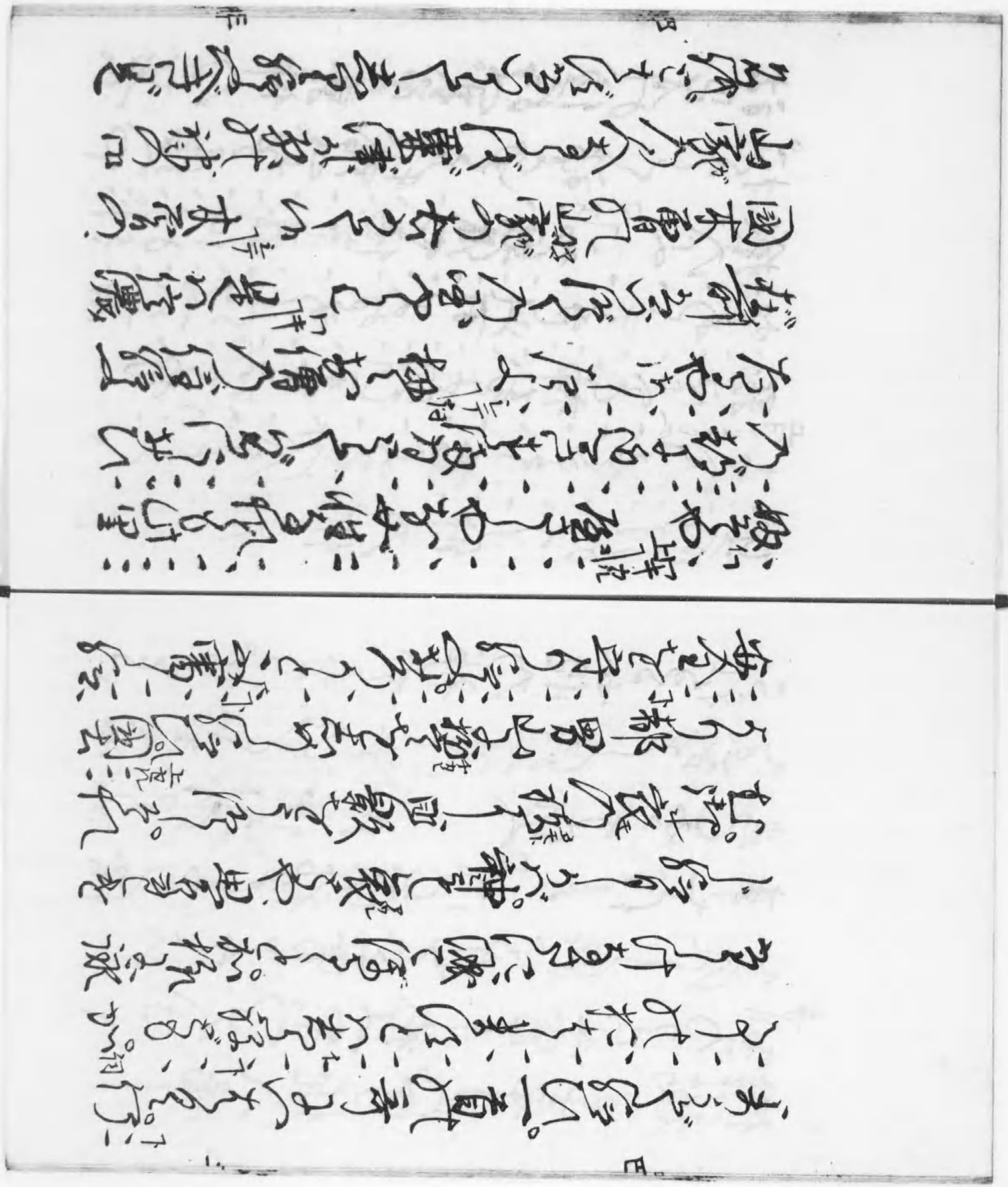
猿

尾張宮

太夫
面増ノ類　暑流女

作り日とそへらるゝ行ひ給
や鳴ノ海とおぼしき所にかたらひ給
ひ引　栗津ノ原やしらしをれて
所ゝ物侍らんだにやと思ひ出
ほのゝ浦波おもかげ栗津ノ
松陰よ祈とらんとゝ神
感を頼やや　思儀やな

こゝ侍る女性ノ神ゝまりなるべ
を尋ぬ事ひとくそふ
ものしふ僧ノ言ばゝ
事を行う　ひし仏神ゝまり
を流し給るゝそふ書ゝて
ものゝとふ書給やつくき
行教ケウを書ゝ作ハ情ゝ



社堂の傍らに義仲の墓あり
ばかりの神ともなれ給へるなり
猿人よ　猿人よ　思ひやれば義仲は
かなしき事なり　此所にみまゝ
種さまざまの神おはしまさるなり
古へ入り給ふ君よりこゝに
なれば仏と祖と神と

成ぬるなり　呼び出でゝ
猿人も一樹の蔭も他生の縁とは
志めり　此松ばかりは猿居し
往を潰通りしもとばかり
給ふなり　義仲寺値遇
き値遇ふ　云ほどよ言て
乃鐘の響

[illegible]

我ひとたびかへりつゝ[illegible]

こゝろぼそくもあるかな

ゆゝしき花の草の[illegible]

[illegible]

[illegible]

きゝがいだやの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ものなれば甲冑
を着まとひ[illegible]ぎりよ中をあと
[illegible]武者せてが家ごよりせさ
[illegible]共うれん　親ぞ踏つくかう
[illegible]君[illegible]よりの中をとこ
[illegible]あるを海[illegible]の
[illegible]波のうらじをあま

で[illegible]信申ぞ[illegible]
ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]恩[illegible]命[illegible]義[illegible]
[illegible]ら[illegible]
ぞ[illegible]
[illegible]居クセウヤハ
[illegible]義仲[illegible]
[illegible]五萬[illegible]

ぬきめられ山やうかたにて
乃合戦よりいらく。捕高名者
高ら板。扨面ごとこれ誰にせよ振
はのなるさせ世がかりてらてし男心
う那さ引乃ぬ。軍
きられうかたもざりようにる
栗津野の草に露ちるきたる

所ウ宮で御傷は間ウ人ハ人ハ
順そくよさせられやうりくし屋
乃合戦ようたまを給り義仲乃
家ほとかりおそまぬ月
はるまぬ雪うむにぎそて物ふを
くかりひぢと行をきて釣をする
新小商行ぬ秋の田より

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あづりまきに敵乃大將あまの色うめ
武者ぶりを見まもるすがたよりまも
ぎくかまきたじどいひくるもけがるま
じじで一軍やと色をくもり
そぐ鎧かさきぶりるさんど長刀
曳きづめどくなるれば
めづ兄うとと切らくまきに長刀

えもくれんくしけべて四方をそくふ
八方ぞくしけ可よあくるをすけまぎく
巴をおつるやそ部の板を立てむ
で戦りきぶ皆一方に切ちりて
沢をさおくて三ぎりる部の巴
よんそざりまやまで
ありわ。立ゆ武君をぶしいだい

複製不許

大正貳年拾貳月壹日印刷
大正貳年拾貳月拾五日發行

大阪府西成郡中津町大字下三番
七十六番屋敷
增補訂正
相續者　大喜多信秀

大阪市北區源藏町十番地
發行者
兼印刷者　冨永久世

大阪府西成郡中津町大字下三番
七十六番屋敷
發行所　常盤會

273
148

終